平成22年度（第65回）文化庁芸術祭主催公演

新国立劇場 2010/2011 シーズン＜演劇＞

［JAPAN MEETS… －現代劇の系譜をひもとく－］Ⅱ

やけたトタン屋根の上の猫

作◎テネシー・ウィリアムズ　翻訳◎常田景子

演出◎松本祐子

2010 年 11 月 9 日（火）～11 月 28 日（日）

新国立劇場 小劇場

人間の愛と欲望がぶつかり合う。――50年代アメリカ演劇の代表作

“日本の演劇がどのように西洋の演劇と出会い進化してきたか”をテーマに掲げた、2010/2011 シーズンの連続企画、［JAPAN MEETS… －現代劇の系譜をひもとく－］。その第二弾として、テネシー・ウィリアムズの『やけたトタン屋根の上の猫』を上演いたします。

舞台はアメリカ南部の大富豪の家。主人の誕生日パーティーに集まった二組の息子夫婦、母親たちの一見なごやかな会話から、家族たちの「嘘と真実」が明らかになっていきます。

まるで“やけたトタン屋根の上にいる猫のように”生きづらさを感じ、孤独の中でもがき苦しむ人々の心の叫びが、痛いほど胸に迫るウィリアムズの傑作戯曲。今回の上演のための新翻訳で生き生きと現代によみがえります。

主人公の次男夫婦には寺島しのぶと北村有起哉、一代で大農園を築き上げたビッグ・ダディとその妻に木場勝己と銀粉蝶を配し、濃密な人間ドラマを紡ぎます。

【2010年9月12日（日）より、前売開始】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当 田中

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当 太田

TEL: 03-5352-5738

新国立劇場 NEW NATIONAL THEATRE TOKYO

http://www.nntt.jac.go.jp

◎作品について

『やけたトタン屋根の上の猫（Cat on a Hot Tin Roof）』は、『ガラスの動物園』、『欲望という名の電車』と並ぶ、アメリカの劇作家テネシー・ウィリアムズの傑作戯曲の一つで、1955年にピュリッツァー賞を受賞しました。

エリヤ・カザン演出によるブロードウェイでの大成功に続き、1958年には、エリザベス・テーラー、ポール・ニューマンの主演により映画化（邦題『熱いトタン屋根の猫』）。ウィリアムズ自身が自分の戯曲作品の中で一番のお気に入りと語っている本作には、作者自身の姿と思いが他作品以上に色濃く映しだされています。

ウィリアムズは「人から人へ」と題した、戯曲の巻頭文の最後にこう書き記しています。「私は、あなたが知っている誰よりも、あなたをよく知っているかのように、私たちが何のために生きるか、そして死ぬかを、自由に、心の底から、話し続けたい」と。

人間と人間のぶつかり合いからでしか生まれる事がかなわない真実の姿に、寺島しのぶ、北村有起哉、木場勝己をはじめとした実力派キャストが挑みます。

◎あらすじ

舞台はアメリカ南部の大富豪の家。一代で大農園を築き上げた一家の主（ビッグ・ダディ）は、体調を崩して受けた健康診断の結果、癌に侵され余命いくばくもないと判明するが、本人には健康体と知らされていた。この家の次男ブリックは、愛する友人の死をきっかけに酒びたりの生活を送り、その妻マーガレットは、ある事件を境に失いかけている夫の愛を取り戻そうと必死だった。いっぽう、長男グーパーとその妻メイの夫妻は、父の病状を知って、遺産相続を有利に運ぼうと画策する。

ビッグ・ダディの誕生日パーティーに集まった二組の夫婦、母親ら、一見なごやかな家族の団らんの中から、親子、兄弟、夫婦そして家族たちの「嘘と真実」が白日のもとに曝されていく…。

＜登場人物と配役 （台本順）＞

マーガレット	寺島しのぶ
ブリック	北村有起哉
メイ	広岡由里子
ビッグ・ママ	銀粉蝶
ディクシー （女の子）	文屋愛海／鎗田千裕 （ダブルキャスト）
ビッグ・ダディ	木場勝己
トゥッカー師	市川 勇
グーパー	三上市朗
ボー医師	三木敏彦

スーキー （黒人召使）　　頼経明子
バスター （男の子）　　井上 怜／山下 翔 （ダブルキャスト）
サニー （男の子）　　川上瑛生／鈴木孝正 （ダブルキャスト）
トリクシー （女の子）　　中道美柚／藤崎花音 （ダブルキャスト）
ポリー （女の子）　　北村海歩／古口貴子 （ダブルキャスト）

◎シリーズ［JAPAN MEETS… －現代劇の系譜をひもとく－］について

2010年9月スタートの 2010/2011 シーズンより、新国立劇場演劇部門の芸術監督に就任した宮田慶子。1年目にラインアップした8演目のうち4本を、シリーズ［JAPAN MEETS・・・ ―現代劇の系譜をひもとく―］として企画しました。

この一連の公演は、「日本の演劇がどのように西洋の演劇と出会い進化してきたか」を軸に、その衝撃と歴史を検証し直し、日本と西洋がどのように向き合ってきたか、そして、改めて今どのように向き合うかを、世界の同時代的な関係も踏まえ、捉え直すプログラムです。

シリーズ4作品とも、新たに原語から翻訳に取り組み、何度も翻訳家と演出家が推敲を重ねて上演台本を作成。登場人物たちに、新しい生命を吹き込みます。

また、各時代の“世界の名作と出会う”ことも、このシリーズの大きな狙いです。新国立劇場ならではの、決定版ともいえるスタンダードな舞台づくりにより、作品の面白さを再認識できることでしょう。

Ⅰ 『ヘッダ・ガーブレル』 2010 年 9～10 月
作：ヘンリック・イプセン　翻訳：アンネ・ランデ・ペータス／長島確　演出：宮田慶子

Ⅱ 『やけたトタン屋根の上の猫』 11 月
作：テネシー・ウィリアムズ　翻訳：常田景子　演出：松本祐子

Ⅲ 『わが町』 2011 年 1 月
作：ソーントン・ワイルダー　翻訳：水谷八也　演出：宮田慶子

Ⅳ 『ゴドーを待ちながら』 4～5 月
作：サミュエル・ベケット　翻訳：岩切正一郎　演出：森新太郎

◎マンスリー・プロジェクトについて

できるだけ多くの方に劇場に足を運んでもらいたいと、“開かれた劇場”を目指す宮田慶子演劇芸術監督。その一環として、2010/2011 シーズンより「マンスリー・プロジェクト」がスタートします。リーディングあり、講座あり、トークショーありの、多彩な無料プログラムを用意し、直近の演劇公演に多角的にアプローチします。

『やけたトタン屋根の上の猫』に関連して、10月は、慶応義塾大学教授の常山菜穂子氏による**<どこから始まる？　アメリカ演劇>**と題した演劇講座を開催します（5階情報センターにて。16日（土）、23日（土）各日14：30。同内容）。

同様に11月は、古城十忍氏を演出に迎え、新国立劇場演劇研修所研修生の出演にて、リーディング公演**<T. ウィリアムズ　一幕劇から>**を上演。『風変わりなロマンス』『話してくれ、雨のように…』の二本立てでお贈りします（小劇場にて。13日（土）、17日（水）各日18：30）。これらイベントを通じて、本公演をさまざまな角度から、より深く楽しめるようになることが期待されます。

◎翻訳家からのメッセージ

常田 景子

テネシー・ウィリアムズは、日本で最も人気のある海外劇作家の一人ではないでしょうか。そのウィリアムズの作品の中でも、『やけたトタン屋根の上の猫』は、『欲望という名の電車』『ガラスの動物園』についで、最もよく翻訳上演されている作品だと思われます。当然すでに複数の名訳があるので、今回、新国立劇場から翻訳を依頼された時は、正直に言って少し驚きました。それだけに、身の引きしまる思いがします。

テネシー・ウィリアムズが、自分の書いた戯曲の中で一番好きな作品だと語ったというのもなるほどと思われる、多面的で濃密なドラマです。1955年に発表された、アメリカ南部の大農園を舞台とする芝居ですが、描かれている夫婦、家族の葛藤は、生と死をめぐる普遍的な深さと重みを持って私たちに迫ってきます。

◎演出家からのメッセージ

松本 祐子

もしもテネシー・ウィリアムズが、バーチャルなコミュニケーションが全盛の今の時代に降り立ったら、どうなってしまうだろうか。発狂する？　アルコールに逃げる？　誰かと繋がりたくて、街角で大声で詩を叫ぶ？　それとも、新しい傑作を書きあげる？

どうして、こんなことを考えてしまうかというと、彼ほど他者と“本当の意味で語り合いたい”という欲望を強く持っている劇作家はいないと思うからである。そしてその欲望とともに、そもそも真実のコミュニケーションなんて不可能なのかもしれないという絶望を抱えて苦しんでいるのがテネシー・ウィリアムズだからだ。

彼のごく初期の作品『Not About Nightingales』の中にも、『地獄のオルフェ』の中にも、そしてこの『やけたトタン屋根の上の猫』の作者自身の序文の中にも、繰り返し繰り返し出てくる彼が考えるところの人間のコミュニケーションのありようは「生涯を独房に監禁された囚人が、同じ境遇の囚人に向かって自己の監房から呼びかける悲鳴」であり、彼の願望は「あなたに向かって語り続けたい。私たちは何のために生き、そして死ぬのかを腹蔵なくうちとけて語り続けたい」というものである。

真実であるという確信は、あまりにも脆いもので、ほとんどの会話は嘘の上に成り立っているわけなのだが、そんな“なまぬるい”コミュニケーションではなく、もっと剥き出しのひりひりとした、相手を切りあって血を浴びることで初めて実感できる厳しい対話を求める彼の言葉は、相手を傷つけること、相手から傷つけられることにひどく臆病な今の日本の社会には、疫病神のような、奇跡のような何かとして光ることだろう。

「人間の経験の真実の姿をとらえる器としての演劇」を求めて、己の傷をさらけ出して言葉を紡いだテネシー・ウィリアムズの作品と対峙することは、私にとって自分の化けの皮を一度剥がしてひっくり返して、裏と表がぐちゃぐちゃになるまで言葉と格闘することなんだと覚悟している。

◎プロフィール

作◎ テネシー・ウィリアムズ （Tennessee Williams）

1911年アメリカ合衆国・ミシシッピ州コロンバス生まれの劇作家。各地を放浪し、大学、職をかえながら創作していたが、1944年『ガラスの動物園』がブロードウェイで大成功し、47年『欲望という名の電車』、55年『やけたトタン屋根の上の猫』で2度ピュリッツァー賞を受賞。
新国立劇場では、2000年10～11月に『欲望という名の電車』（栗山民也演出）、06年2月に『ガラスの動物園』（イリーナ・ブルック演出）が上演されている。

翻訳◎ 常田景子 （つねだ・けいこ）

神奈川県生まれ。横浜、富山、神戸、大阪、東京で育つ。東京大学文学部心理学科卒。大学在学中、劇団夢の遊眠社に入団。文学座附属演劇研究所20期。木山事務所、如月小春主宰NOISEなどで俳優として活動するかたわら翻訳を始め、パルコ劇場制作部勤務を経て、現在は上演台本を中心に翻訳に携わる。初上演作品は1993年、宮本亜門演出パルコ劇場公演『滅びかけた人類、その愛の本質とは…』。2001年、第8回湯浅芳子賞、翻訳・脚色部門受賞。近年の主な上演作品に、『グレイ・ガーデンズ』『奇跡の人』『サンデー・イン・ザ・パーク・ウィズ・ジョージ』『回転木馬』『シカゴ』『6週間のダンスレッスン』『ペテン師と詐欺師』『ピアフ』『ミザリー』『ディスタンス・フロム・ヒア』『伝説の女優』『ヴァギナ・モノローグス』『スタッフ・ハプンズ』『サムワン』『パーマネント・ウェイ』『ア・ナンバー』『ウィンズロウ・ボーイ』『デモクラシー』『ママが私に言ったこと』『ダム・ウェイター』など。翻訳書に、『美しさという神話』『路上の砂塵』『ヴードゥーの神々』『ダ・ヴィンチとマキアヴェッリ』『戯曲の読み方』『現代戯曲の設計』『リディキュラス！』などがある。

演出◎ 松本祐子 （まつもと・ゆうこ）

1992年、文学座附属演劇研究所に入所、97年より文学座座員に。99年11月より文化庁派遣芸術家在外研修員として1年間、ロンドンにて研修。
主な演出作品に『冬のひまわり』『秋の蛍』『音の世界』『女人渇仰』『ホームバディ／カブール』『ぬけがら』『犀』など文学座公演のほか、流山児プロデュース『ガラスの動物園』、海のサーカス『アジアン・スイーツ』、コマプロダクション『ミザリー』、ホリプロ『ピーターパン』『サムワン』『ウーマン・イン・ホワイト』など。2001年

『ペンテコスト』上演に対し、湯浅芳子賞を受賞のほか、05年『ぬけがら』『ピーターパン』の演出に対し、第47回毎日芸術賞・千田是也賞を受賞。現在、桜美林大学総合文化学科にて非常勤講師を勤める。新国立劇場では04年に『てのひらのこびと』、08年に『鳥瞰図』を演出している。

マーガレット◇　寺島しのぶ　（てらじま・しのぶ）

京都市生まれ。1992年文学座に入団後、女優としての活動をスタート。96年の退団以降、舞台、TV、映画など多方面で活躍。主な舞台出演作に『欲望という名の電車』『グリークス』『私生活』『血は立ったまま眠っている』等がある。2007年『書く女』で第6回朝日舞台芸術賞・舞台芸術賞、第14回読売演劇大賞・最優秀女優賞を受賞。2003年『赤目四十八瀧心中未遂』（監督：荒戸源次郎）、『ヴァイブレータ』（監督：廣木隆一）で国内外の映画賞を多数受賞。その他に、『単騎千里を走る』（監督：チャン・イーモウ）、『愛の流刑地』（監督：鶴橋康夫）、『ハッピーフライト』（監督：矢口史靖）等。『キャタピラー』（監督：若松孝二）で第60回ベルリン国際映画祭銀熊賞（最優秀女優賞）受賞。新国立劇場には03年の『世阿彌』以来の登場となる。

ブリック◇　北村有起哉　（きたむら・ゆきや）

東京都出身。1998年、舞台『春のめざめ』と映画『カンゾー先生』でデビュー。ジャンル、キャラクター、時代などにとらわれない振れ幅の広さで、映像、舞台で幅広く活躍する。最近の主な出演作に舞台『道元の冒険』（蜷川幸雄演出）、『トゥーランドット』（宮本亜門演出）、『青猫物語』『リボルバー』（マキノノゾミ演出）、『パイパー』『ザ・ダイバー』（野田秀樹演出）等。映画『長州ファイブ』（五十嵐匠監督）、『キキコミ』（西田征史監督）、『クロサギ』（石井康晴監督）、『世界で一番美しい夜』（天願大介監督）等。TV『婚カツ』『最後の約束』（フジテレビ）、『マイガール』『警視庁失踪人捜査課』（テレビ朝日）、『蛇のひと』『パンドラⅡ　飢餓列島』（WOWOW）等。2007年新国立劇場で上演の『CLEANSKINS/きれいな肌』にて、第7回朝日舞台芸術賞寺山修司賞、第15回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞。

ビッグ・ママ◇　銀粉蝶　（ぎんぷんちょう）

1981年、演出家・生田満と共に劇団『ブリキの自発団』を創立。同劇団の主演女優として活躍し、“最後のアングラ女優”の異名を持つ。気さくで飾らない人柄からは予想もつかない情感に溢れた演技が魅力。シリアスな役からコミカルな役まで、あるいは少女から老婆まで幅広くこなす演技派女優としてこれまでに数多くの映画、TVドラマ、舞台に出演。主な出演作に、舞台『パンドラの鐘』『ふくすけ』『谷間の女たち』『三人姉妹』『泣き虫なまいき石川啄木』『エデンの東』『CLEANSKINS/きれいな肌』等。映画『ハチミツとクローバー』『ピカンチ』等。TV『タイガー＆ドラゴ

ン』『天使が消えた街』『繋がれた明日』等。また、ゴシック＆アダルトシンガーでもあり、キティレコードからアルバム『STAND BY ME』をリリース、さらに夜想舎から劇中歌を集めたカセットブック『真冬のトマト／銀粉蝶ミワクるステージ』も出版している。

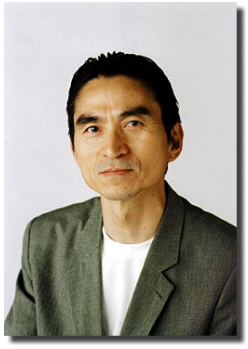
グーパー◇　三上市朗　（みかみ・いちろう）

劇団M.O.P.所属。数多くの小劇場の舞台に主役級で出演する傍ら、最近は商業演劇からドラマ・映画・海外ドラマの吹き替えなど幅広く活躍中。ニックネームは艦長。最近の主な出演作は、舞台『東京タワー　オカンとボクと、時々、オトン』『エンジェル・アイズ』『ナツひとり』『どん底』『阿片と拳銃』『偶然の音楽』『リボルバー』『ドリアン・グレイの肖像』『ワルシャワの鼻』等。映画『踊る大捜査線　THE　MOVIE2』『新・仁義なき戦い2』『銀色のシーズン』『僕らの方程式』等。

メイ◇　広岡由里子　（ひろおか・ゆりこ）

1987年東京乾電池に入団。99年に退団するまで、ほとんどの定期公演に出演。2001年からケラリーノ・サンドロヴィッチとともにオリガト・プラスティコを結成、09年1月に第4回公演『しとやかな獣』を上演。日常的な親しみやすさとミステリアスな空気を併せもつことから、舞台はもとより、映画・テレビと活動の幅は広い。主な出演作品は、舞台『悪霊～下女の恋』（松尾スズキ作・演出）、『三人姉妹』（岩松了演出）、『マダラ姫』（竹内銃一郎作・演出）、『漂う電球』（ケラリーノ・サンドロヴィッチ演出）、『幸せ最高ありがとうマジで！』（本谷有希子作・演出）、『タトゥー』（岡田利規演出）、映画『狗神』『生霊』『ゲゲゲの鬼太郎』、TV『まんてん』『愛と友情のブギウギ』『花嫁とパパ』『つばさ』など。

トゥッカー師◇　市川　勇　（いちかわ・いさむ）



1952年2月8日生。東京都出身。1975年劇団東京ヴォードヴィルショー入団。78年劇団として第15回ゴールデンアロー賞新人賞受賞。劇団東京ヴォードヴィルショー本公演に出演しながら外部の舞台公演、テレビドラマなどで活動を続ける。主な出演作品に、映画『静かなるドン　THE　MOVIE』『ホワイトアウト』『明日の記憶』等。テレビドラマ『ショムニ』（レギュラー）『ショムニファイナル』（レギュラー）『相棒』『TRICK2』『警視庁捜査一課9係』『セレブと貧乏太郎』『おせん』『浅見光彦～最終章～』『土曜時代劇まっつぐ～鎌倉河岸捕物控～』『JOKER～許されざる捜査官～』等。舞台、劇団本公演『その場しのぎの男たち』『アパッチ砦の攻防』『見下ろしてごらん、夜の町を。』『無頼の女房』等の他、外部出演『江戸の花嫁』『阿国』『谺来る』『34丁目の奇跡』『疑惑のアパート』『悪役志願』等多数出演している。

スーキー◇　頼経明子　（よりつね・あきこ）

2002年文学座付属研究所入所、07年同劇団座員に。初舞台は『名は五徳』、以後『風をつむぐ少年』『地下室』『若草物語』『長崎ぶらぶら節』『犀』『わが町』などに出演。外部出演に『海と日傘』『カラフルヒップ』など。

ボー医師◇　三木敏彦　（みき・としひこ）

1965年文学座付属研究所入所、70年同劇団座員に。初舞台は『シラノ・ド・ベルジュラック』、以後『欲望という名の電車』『調理場』『ふるあめりかに袖はぬらさじ』『ウェストサイドワルツ』『特ダネ狂騒曲』『柘榴のある家』『月がとっても蒼いから』などに出演。外部出演に『恋ぶみ屋一葉』『恋忘れ草』など。

ビッグ・ダディ◇　木場勝己　（きば・かつみ）

東京都生まれ。櫻社、斜光社、秘宝零番館をへて、t.p.t.旗揚げに参加。国内外の演出家によるシェイクスピアやチェーホフ作品でも活躍。幅広い活動と確かな演技は高い評価を受けている。主な舞台出演作に『オセロー』『最後の一人までが全体である』『天保十二年のシェイクスピア』『ロマンス』『きらめく星座』『道元の冒険』『氷屋来たる』『異人の唄』『ヘンリー六世』等。2002年読売演劇大賞最優秀男優賞、08年紀伊國屋演劇賞個人賞などを受賞。

◎公演概要

【タイトル】　JAPAN MEETS…　－現代劇の系譜をひもとく－　Ⅱ

やけたトタン屋根の上の猫

【スタッフ】

作	テネシー・ウィリアムズ
翻訳	常田景子
演出	松本祐子
美術	松井るみ
照明	沢田祐二
音響	高橋　巖
衣裳	前田文子
ヘアメイク	川端富生
演出助手	城田美樹
舞台監督	加藤　高
芸術監督	宮田慶子
主催	文化庁芸術祭執行委員会／新国立劇場

【キャスト】　寺島しのぶ、北村有起哉、銀粉蝶、三上市朗、広岡由里子、市川勇、
頼経明子、三木敏彦、木場勝己
文屋愛海・鎗田千裕／井上怜・山下翔／川上瑛生・鈴木孝正
中道美柚・藤崎花音／北村海歩・古口貴子（ダブルキャスト）

【会場】　新国立劇場　小劇場　（京王新線　新宿駅より1駅、初台駅中央口直結）

【公演日程】　2010 年 11 月 9 日（火）～11 月 28 日（日）

2010年	11/9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	祝	水	木	金	土	日
13:00			◎		●	◎	休演	★	●	●		●	●	休演	●	●	●		◎	●
18:30	●	●		●	♪				♪	◎	●						●	●	●	

♪＝リーディング公演『T. ウィリアムズ一幕劇から』、★＝終演後シアタートーク、◎＝託児室あり

【前売開始】　2010 年 9 月 12 日（日）10:00～

【料金】　A席 5,250 円　B席 3,150 円

予約・問い合わせ：　新国立劇場ボックスオフィス　TEL：03－5352－9999
新国立劇場Webボックスオフィス　http://pia.jp/nntt

チケット取り扱い：　チケットぴあ、イープラス、チケットWeb松竹、
ローソンチケット、CNプレイガイドほか

＊**Ｚ席 1,500 円**　公演当日のみボックスオフィスで販売。１人１枚。電話予約不可。＊**当日学生割引**　公演当日残席がある場合、Ｚ席を除く全ての席種について５０％割引にて販売。電話予約不可。＊新国立劇場では、高齢者割引（５％）、障害者割引（２０％）、学生割引（５％）、ジュニア割引（中学生以下２０％）など各種の割引サービスを用意しています。